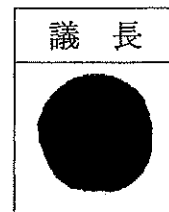


(書式5) 研究会・研修会等参加報告書



平成30年 1月18日

(会派名) 市民の声  
(会派代表者) 出田 泰三 殿

(会派名) 市民の声  
(氏名) 斉藤 義明

研究会・研修会等参加報告書

下記のとおり実施したので報告します。

1. 会議の名称 3期目までの自治体議員のための基礎講座  
①行政サービスの効果や有効性の分析  
②質問作成1000本ノック
2. 会議の日時 ①平成30年1月15日(月曜日)  
14時～16時30分  
②平成30年1月16日(火曜日)  
10時～12時30分
3. 会議の場所 TKP東京駅八重洲カンファレンスセンター  
(東京都中央区)
4. 出張の期間 平成30年1月15日(月曜日)～16日(火曜日)
5. 参加議員名 斉藤 義明
6. 会議の概要

.....  
別紙のとおり  
.....  
.....  
.....  
.....

※ 会議の資料等を添付して下さい。

(別紙)

①行政サービスの効果や有効性の分析

○概要

行政と民間との差は何か？それはフィードバックの有無である。民間企業は市場を通して客の満足度を測り、再投資・再生産に結びつける。行政の場合、市場がないため市民の満足度が計測できない。また、満足度の大小と税金とは関係がない。事業評価はその内容を知るだけではできない。市民のため、市を良くするという戦略的な計画なくして評価は存在しない。行政評価・分析をするにあたって、真実の裏にある課題、問題を構造化＝見える化する事が大事だ。その為に①. 現状をデータベースで捉え、②. 目的、効率化などの観点から課題の洗い出し、③. そして改革に向け、可能性のある選択肢を仮定し提案・シュミレーションを行う。

○所見

決算委員会のあり方を示唆していると思う。大阪市で第三者による行政評価、それをベースに事業分析が実施された。結果として、市に大きな変化が見られ、市職員の意識、仕事の取り組み方や精度などが大幅に改善されたそうである。その後何年かして、職員に負けないようにと議員も勉強会の開催、研修会参加など自己研鑽に努めるようになった。中には夜間の大学院に通う人も現れたそうである。優秀な市職員は、優秀な議員を作るといふことなのか。本市もあやかりたいものである。しかし逆に、優勝な議員が優秀な市職員を育成するともいえるであろう。

②質問作成1000本ノック

○概要

子どもの貧困、いじめ対策、危機管理の現況等に関する議会の一般質問の例題を使って、3～4人のグループでもっと質問の質を上げるためにはどう手を加えていけばよいかを議論し、発表するというスタイルで進化した。危機管理についていえば、①第一報はどこからか、②初動対応は、③管理体制—内部体制、情報収集、指示命令・報告—外部との連携、④市民への指示広報・協力体制についてなどの質問が必要であり、今後の課題として、①災害の種類で対応が違ふ、②防災訓練の必要性（自主防災、企業、学校）③人材育成（専門知識の習得）なども織り込んでいけば、質問に深みが出るという内容であった。

○所見

他の議員との意見交換は参考になる面もあり面白かった。

とにかく質問のレベルを高めるには、現状分析から始めることによって、そこから見える課題を構造化すること＝見える化が大事だと認識する。

そして、問題指摘型ではなく、課題解決提案型に持つていくことの重要性も再認識した。